

審判員派遣報告書

1	派遣事業名 平成28年度 第2回四国クラブバスケットボール連盟審判講習会	2	派遣期日 平成28年9月3日(土) 4日(日)
3	報告者名 山田 豊弘 (クラブ連)	4	派遣先 今治市営大西体育館

5	大会概要 および 大会結果		
大会名称	2016 今治バスケットボールカーニバル	大会期間	2016.9.3~9.4
大会内容	四国クラブ連盟男子、女子、シニアの各県上位チームが参加し、総当りのリーグ戦をおこなった。 男子は、徳島クラブ、女子は明善クラブ、シニアはマスターズ愛が優勝を果たした。		

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	9月4日	徳島クラブvs今治籠球会	R	北川(高知)、木下(高知)	序盤得点は均衡していたが、終始徳島クラブが主導権を握るゲームであった。
2					
3					
4					

7	審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等 ・今回の講習会では、初めてグループディスカッションをおこなった。 初めて会う県外の審判員と意見交換することで、コミュニケーション能力を高める良い機会となった。各審判員がお互いの環境や、審判活動に対する考え方を知る事で、今抱えている悩みや、目標を改めて明確にする機会となった。 さらに今回は、若手の発掘、早い時期から高い意識を持ってもらおうとC級以下の派遣もおこなった。どの審判員も緊張しながら一生懸命取り組む姿が印象的だった。 担当ゲームでは、3パーソンの経験が少ないレフェリーとクルーを組み、お互いの協力やメカニクスの重要性を再確認することができた。ゲームコントロールする為に必要はコールを考えながらタイミング良く判定することができたのではないかと思う。 最後に、県内で大会が開催される中、講習会へ参加させて頂いたクラブ連盟関係者の皆様には厚くお礼を申し上げます。
---	---

審判員派遣報告書

1	派遣事業名 今治カーニバル大会	2	派遣期日 平成28年9月3日(土)
3	報告者名 菅 由佳里 (クラブ連)	4	派遣先 今治市営体育館

5 大会概要 および 大会結果

大会名称	今治カーニバル大会	大会期間	2016.9.3～2016.9.4
大会内容	四国内のクラブの交流大会。各県男女、上位チームが集まり毎年行われている。男子のシニアのチームも参加しておりレベルも高い交流大会である。運営面では四国内のクラブ連のレフリーが集まり意見交換を行ったり 実技を上級レフリーとみてミーティングに参加したりとお互いに高めあういい機会となった。		

6 担当したGame

No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	9月3日(土)	男子:クリッパークラブVS徳島クラブ	U1	R 川村(愛媛)U2 高橋(愛媛)	両チーム選手のサイズも似ていてよく走るチームで激しいDEFが持ち味のチームある。試合開始から徳島クラブが流れをつかむ。DEFの粘りから確実にシュートを決め勝利をおさめた

7 審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関すること、全体の感想および提言等

講義内容

テーマ「よりよい審判員を目指すために、自分に今何が必要か…」

今回は講義はなくグループディスカッションを行った。
 ディスカッションの内容・自分の目標、自分の課題・課題を達成するために何が必要か…・今後どのように取り組むか である。年齢も経験も違う仲間とのグループだったが「一日一課題を決めてそれを必ずつぶしていく」「強くなるにはルールの理解が必要」「目標は全国クラブを吹くこと」など私自身も刺激を受けることができた
 私の目標は、特別なことができる！！ではなくまず、当たり前のことを当たり前前にできるようにする。ということと 1ゲームを通して一貫性をもち常に強い気持ちでコートに立ち続けるということである。 四国総体 ミニ国体と経験を割り当てがなくその悔しさも感じ、またたくさんの方からお話もいただいた。感謝の気持ちでいっぱいだった。なのでまずこの今治カーニバルでコートに出せるようにと臨んだ大会だった。 試合後のミーティングでは2つのことを指導いただいた。 1つ目はシリンダーについてである。シリンダーをおかすということはどういうことなのかもう一度ルールブック・マニュアルを読み返し理解しなければならぬと感じた。なぜファールなのかファールでないのかしっかり説明ができるようにしなければならぬ。2つめは相手レフリーとのコミュニケーションと協力である。3パーソンだったので他の2人の位置の確認、目を合わせる工夫がたくさん必要だったと思う。これから3パーソンも吹く機会が増えていくと思いますが、目の前のことを判定することは同じなので動きだけにとらわれずにしっかりと判定していきたい。いつも同じことを指導されることが多いので毎回同じことを言われるのではなく反省点を必ず生かしていきたい。
 今後の自分自身には、日々の努力や習慣づけていかなければならぬことがたくさんあります。まずトライすること。失敗を恐れずにチャレンジをたくさんしていこうと思います。主審に頼るのではなく主審を任せられるようにならなければいけないと思います。4月からクラブ連に移籍しましたが、その中でたくさんの方々に支えられているなど実感しています。移籍することを後押ししていただいた方、温かく見守ってくれてる方…そんな方々のためにも頑張りたいという気持ちも再確認できました。この経験を還元できるよう自信と謙虚さと感謝の気持ちを持ちこれからも活動していきたいです。また恵まれたことに香川県には指導してくれる方がたくさんいるのでこの環境を当たり前だと思わず日々感謝をして活動していかなければならないと思っています。最後になりましたが今回今治カーニバル大会に派遣していただき本当にありがとうございました。全国クラブに派遣させてもらえるようコート内コート外でも日々努力します。これからもご指導よろしくお願い致します。

審判員派遣報告書

1	派遣事業名 四国クラブ連盟第2回審判講習会 今治カーニバル	2	派遣期日 平成28年9月3日～4日
3	報告者名 藤原 紘子	4	派遣先 今治市営中央体育館

5	大会概要 および 大会結果		
大会名称	今治カーニバル	大会期間	平成28年9月3日～4日
大会内容	出場チームはシニア4チーム、女子・・・明善クラブ、うるとらクラブ、らんずクラブ、TRICK 男子・・・クリッパークラブ、今西籠球会、朝倉クラブ、徳島クラブ。 男子は3メンで行い、シニアと女子は2メンで行った。 すべてリーグ戦で行った。		

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム雑感
1	9月3日	朝倉クラブー今西籠球会	R	後藤氏(高知県) 西氏(徳島県)	出だしで、20点差をつけ、朝倉がリードしたものの、後半追い上げ、最後は接戦のゲームとなった。
2	9月4日	クリッパーー今西籠球会	U1	渡辺氏(徳島県) 後藤氏(高知県)	出だしクリッパーの3pが入り得点差がついたが、途中今西が追い上げた。その後は、クリッパーが得点を重ねて勝利をつかんだ。
3					
4					

7	<p>審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関すること、全体の感想および提言等</p> <p>今回の講習会では、同じクラブ連盟で活動する方々とのグループディスカッションがあった。私は、グループのリーダーという役割をいただき、グループの方々の現在の悩みや取り組みの内容、今後のビジョンなどについて話し合った。グループの中には、10代から40代と年齢の幅はすごくあったものの、みなさんレフリーをする上での悩みは、本当によく似ているなあと感じた。特に、メンタル面のコントロールの難しさについて話題があがった。その中で、一番レフリーとして経験が長い方が、次のようなことを言っていた。「試合中のメンタルについては、日々の生活が全て。家庭や仕事、プライベートなど、いろいろな場面でいろいろな方々とコミュニケーションを繰り返すことで、自分の人としての強さも弱さも磨かれていくものである。」</p> <p>私自身、メンタルの弱さは課題として認識していることであったので、その方のお話していたことはすごく心に響いた。「嫌なこと、辛いことから目を背けない。自分の弱さを見つめる。」このことは、自分自身の現在の活動の中で、最も大切にしていることである。レフリーとしての判定やマニュアルは勉強し、経験して身につけていくものであるが、人としての中身は自分自身が自分や周りの方々に対してどのようにかわり、働きかけをするかということによって身につけていくものであると感じた。</p> <p>2日間とも、男子のゲームを3メンで吹かせていただいた。今回ゲームを担当させていただいて一番学んだことは、リードのポジショニングとトレイルやセンターからアングルをつけてみる視野の取り方についてである。日ごろご指導いただいていたことと直結することであり、判定にもつながる大切な見方だと感じた。プレーヤー同士の位置関係を的確に判断し、自分の動き方も終始工夫しなければいけない。また、フロッピングやアクティングなどに対する処置の仕方もゲームレベルが上がっていくにつれて見過ごしてはいけないし、毅然とした態度で判定していかなくてはならないとご指導していただいた。最後に、「判定」の内容として、どちらに責任があって、どのような状態になっているのかということをもっと丁寧に吟味し、判定したことに満足せず、判定した後、どのような反応があるかということも想定したうえで、コートに立たなくてはならないということもアドバイスしていただいた。</p> <p>いつもとは違うフレッシュなメンバーで行った講習会であったが、その分、自覚をもって取り組まなくてはならないと感じられた二日間だった。今回、県内では大会が重なる中、講習会に参加させていただき、本当にありがとうございました。この経験を大切にして、自分自身の活動をさらに深めていきたい。</p>
---	---

審判員派遣報告書

1	事業名	第2回 四国クラブバスケットボール連盟 審判講習会	2	日程	平成28年 9月3日～9月4日
3	報告者	織野 昭芳	4	派遣先	今治市営中央体育館

5	大会名称・期間 および 内容等				
	大会名称	2016 今治バスケットボールカーニバル	大会期間	2016.9.3～9.4	
	内容等	・男子の部、女子の部、シニアの部で、四国4県からそれぞれ1チームずつ参加した。 ・それぞれの部で、4チームによるリーグ戦が行われた。			

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム 雑 感
1	9月3日(土)	シニア・高浦シニア VS tioプレス	U	金山 祐記さん(愛媛)	前半は、拮抗したゲーム展開だった。後半は、まず高浦シニアがリードするがtioプレスが逆転した。最後は、高浦シニアがファールゲームを仕掛けたがtioプレスの勝利に終わった。
2	9月4日(日)	女子・うるとらクラブ VS らんずクラブ	U	山田 佳奈さん(愛媛)	前半は、らんずクラブが試合を優位に進めリードを広げていった。後半は、両チームともにファール数が減り、徐々にうるとらクラブが盛り返し延長まで戦った。らんずクラブが勝利
3					
4					

7	審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関すること、全体の感想および提言等
	<p>今回の講習会では、グループディスカッションによる講習と実技講習会、全体懇親会が行われた。</p> <p>グループディスカッションでは、テーマ「よりよい審判員を目指すために、自分に今何が必要か・・・」として話し合った。ディスカッションとなっているが議論ではなく対話が行われた。ここでは、試合中は全力で現象を捉えることや失敗を恐れずチャレンジし反省することが重要だとする意見が出た。また、審判の質はコート外での活動をどれだけできるかで大きく変わってくる。日々のトレーニングやマニュアルの熟読だけでなく、バスケットボールの理解やメンタルの向上への取り組みも重要である。これらは、日常で人と関わりながら磨かれるものだとまとまった。</p> <p>実技講習会では、3,4日ともに1試合ずつ審判割当を頂いた。3日は、審判として試合をとおした判定基準を示すことができず、選手に不満が溜まるゲームにしてしまった。判定の正確性はこれから求められるものだが、まず積極的に判定し笛を鳴らそうとする気持ちが足りなかったことを反省している。4日は、3日の審判で課題となった判定する気持ちを持って試合に臨んだ。自分なりの判定基準を明確に持って試合に臨んだことで笛を吹く回数が多くなった分、ノーコールが正しいケースがいくつか生じたが試合後反省することができた。また、試合の前半で判定基準を示したことで、後半のファール自体が少なくなり笛を吹く回数も減少した。ただ、終盤接戦になり再びファールが増えたとき、前半と同じ基準で判定できなかったことが課題として残った。</p> <p>3日夜にあった全体懇親会では、私より若い審判の方々とは話を交わした。また、参加した審判同士だけでなく当日審判した試合に出場していた選手の方々からも意見とアドバイスを頂いた。選手側の率直な気持ちを聞くことも、バスケットボールを理解する上で重要なことだと思う。</p> <p>講習会に参加して、私よりも若い方々が、すでに多くの経験を積まれていることを伺った。そして、もっと上の世界を見ていることを知り私の実力不足を痛感した。講習会は、参加した後のこれからの大事なと思うので、普段から審判をさせて頂ける試合を一つ一つ無駄にしないようにしたい。</p> <p>四国バスケットボール連盟の審判講習会に特別枠として派遣して頂きありがとうございました。講習会では、審判として実力不足な部分を痛感しました。しかし、懇親会や2日間の活動をとおして他県の審判の方々と交流することができ大きな刺激となりました。私は、まだD級審判員であるため特別枠での派遣となりましたが、今後は一層精進し他の講習会にも参加できるようになりたいと思っております。よろしくお願いたします。</p>

審判員派遣報告書

1	事業名	第2回 四国クラブバスケットボール連盟 審判講習会	2	日程	平成28年9月3日(土), 4日(日)
3	報告者	川原 勝	4	派遣先	今治市営中央体育館

5	大会名称・期間 および 内容等				
	大会名称	今治カーニバル	大会期間	平成28年9月3日(土), 4日(日)	
	内容等	四国4県 各1チームずつ代表を出してリーグ戦にて行われた。クラブ男子、クラブ女子、シニア男子計12チーム集まり2日間で18試合行われた。男子は徳島クラブ(3勝0敗) 女子は明善クラブ(3勝0敗) シニアはマスターズ愛(3勝0敗)で優勝した。			

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム 雑 感
1	9月8日	サンズクラブ対高浦シニア	R	窪田 悠人(愛媛E)	出だしサンズクラブの速攻がでて点差が開いた。高浦シニアもメンバーを変えつつリズムを変えようとし、最後はオールコートで当たったが力及ばずサンズクラブの勝利に終わった。
2	9月9日	TRICK 対 うとらクラブ	R	土谷 峰到(徳島C)	ゲーム序盤TRICKがインサイドのミスマッチを狙い得点を重ねる。それに対してうとらクラブの外回りの活躍などもあり前半を折り返す。後半TRICKの外回りの得点も増えインサイドも機能してきて点差を広げる。4Q残り8分のタイムアウトをきっかけにオールコートを仕掛けるがTRICKの勢いになわずTRICKの勝利に終わった。
3					

7	審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等
<p>【グループディスカッション】 最初は自己紹介から始まった。普段顔を見る機会が少ない人達の中で自分の強み、弱みを言葉にして表現する事はとても難しいし大切な事だと感じた。 年齢も経験年数も性別も違う中で共通して出た意見としては、平日の過ごし方が大切だと言うこと。 審判としてコートに立つ時間は1日多くて2試合。その中でより良い判定をするためには、なにが必要なのか。体力が足りなかったらプレーヤーのスピードについていけるようにトレーニングを行う。ルールの理解が足りないのであれば、マニュアルを読み覚えるなど、平日の限られた時間でも出来ることは沢山あるため、各自の課題をこなしていくことが重要である。 このようなことは、カテゴリーや目標が違えど、レフリーとして終わりのないことなのでしっかりと取り組んでいきたい。</p> <p>【実技講習】 初日はシニア男子、2日目はクラブ女子の試合だった。 共通して言えることは、質の悪いプレーに対して適切な判定ができなかったということが一番の反省点である。原因はスペースを見に行く努力や、リーガル、イリーガルの見極めなどバスケットボールの技術の理解不足である。 こういった点を補うためには、講師の方がおっしゃられた一言[人間ウォッチング]を参考にしたい。ただ単に笛を鳴らすのだけではなく選手が視野に入ること目配りなどをして抑止力を出したり、時には声を出して止めることも必要だと思った。</p> <p>【講習会を通しての感想】 今回の講習会のテーマである「よりよい審判員を目指すために、自分に今なにが必要か…」(『自分の目標を明確に持ち、目標達成のために…』)を考え二日間過ごした。</p>	

県外の方と交流しながら色々な試合を見ていて、審判員としてゲームを任された時に信頼される人になりたいと思った。

四国クラブ、全国クラブを賭けた試合のコートに立った時に普段の自分が出せるように日頃から本番のつもりで審判に取り組みたい。

自分が、プレーヤーの立場でコートに立っている時に「練習は本番のように、本番は練習のように」と言われたことがあるのだが、審判員も同じだと思う。日頃している事が公式戦でもでてしまうので、普段から緊張感を持って活動していく事。いつでも試合を任されてもいように準備しておくことを心掛けたい。

クラブ連盟の審判員として四国クラブ選手権のコートに立つことを目標に、公式戦や練習試合など、週末の活動や平日の活動もふくめ、謙虚にひたむきに努力していきたい。

このような貴重な機会を設けて頂いたことについて、感謝申し上げます。この二日間の経験を活かし、さらなるスキルアップへ繋がりたいと思います。